

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

7月中旬、長野市吉田の一兎舎で開催されたNPO信州地域社会フォーラムの総会とコーヒーブレイクに参加する。コーヒーブレ

イクの講師は、当フォーラムの理事の一兎舎社長、山崎恵理子さん。テーマは、「わが社は全員正社員」仕事と家庭の両立を応援する企業」だ。一兎舎は平成18年に設立し、書籍出版をはじめ、広報印刷物や販売促進ツールを手がけているが、お客様が望む仕事なら、何でも積極的に対応しているという会社の姿勢に驚く。

人公の花村紅緒へ憧れたのが原点。編集・営業・デザインなど全部一人でやらなければならぬ貧乏な出版社で働くのが夢だった。多忙な毎日など苦にならないと語る山崎さんから「夢」を抱く大切

員を正職員として雇ったのが原点。編集・営業・デザインなど全部一人でやらなければならぬ貧乏な出版社で働くのが夢だった。多忙な毎日など苦にならないと語る山崎さんから「夢」を抱く大切

に導かれるという。成功の条件として挙げられるのは、誠意、謙虚、誠実、勇気、正義、忍耐、勤勉、節制、黄金律である。山崎さんの話を聞きながら成功に導く人の思考に驚きを感じた。

てはしくない。困ったら会社の老人マンションを利用してほしい。社員が働きやすく、不安なく働ける環境が大切。東京生まれでの山崎さんにとって、長野は働く女性にとってまだまだ。男女問わずに

仕事と家庭を両立できる環境づくりが役割だと、強く感じているのだと伝わってきた素敵なお話もあった。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

人を育てる事を大事に考える会社 経営者の取り組みが注目されている

社名は、ウサギ年の山崎さんが、1人で起業したのが由来。小学生の頃読んだマンガ「はいからさんが通る」の中で、つぶれそうな出版社に勤めた主

さが強く伝わってくる。一兎舎で注目したもののが就業規則。現在16名の会社だが、なんと100人雇用できるほど整っている事だ。仕事や会社は、己の命の大半を使うところ。だから全社

だ。講演中ふと、下野新聞のコラム雷鳴抄で作家、故ステイブ・コヴィー氏の著書「7つの習慣」を紹介していたのを思い出す。そこでは人格的に筋が通った人間が真の成功

40代の山崎さん、50代になった時の親の介護対策に「老人マンション」のついた社屋づくりの夢を熱く語ってくれる。社員にその辛さを味わってほしくない。そうなった時に優秀な社員に辞め



目標・信念・出会い・信頼が創り出す後世に遺るものづくりの企業理念が素敵だ